２０２１年度末報告書（実行団体）

● 提　出　日　：2022 年　4 月　12 日
● 事　業　名　：「女性に対する暴力」専門相談支援者育成事業
● 資金分配団体　：特定非営利活動法人まちぽっと
● 実 行 団 体　：特定非営利活動法人　全国女性シェルターネット
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　□無

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
①１－1 会議参加者の中で、求められる人材(知識や能力）の基準が明確化され、またそのための講座などの枠組みが作り上げられる。	明確な基準が作られていること。策定にあたった関係者からの意見が反映されていること。	適切な基準を打ち出す基本的枠組みができること。	2020 年 10 月	達成できた（案を策定した）	2
②1－2. 海外からの情報によって、カリキュラムの内容(項目や時間数、認証方法などを）やその進め方がますます明確になり、また改善される。海外からの情報を活かすことにより、より豊富な内容で妥当なものになる。	カリキュラム策定委員や関係団体からの評価	適切な基準を打ち出す基本的枠組みができること。	2020 年 11 月	達成できた（案をさらに詳しく策定した）	2

③　2　各分野専門家(司法、医療、心理、福祉など) の意見によって、カリキュラム案や認証方法の案が見直され、より妥当性・現実性のある案が決定される。また、講座実施の際の講師や教材作成の協力者への打診ができる。	見直された案が決定される。協力できる専門家・講師人材プールができる。	案の決定。協力専門家のリストに 10 人以上	2021 年 3 月	試行実施案と、カリキュラムの素案が作成された。協力専門家 21 名	2
④　3. 東京での試験的な講座実施によって、受講者の需要や層などの情報が得られ、また講座実施上の成果や課題を把握できる。またこの事業の認知を広げることができる。	講師への聴き取り、参加者アンケート調査での回答によって、フィードバックが得られること。	講師からの回答 5 以上。受講者からのフィードバックを過半数の受講者から得ること。	2022 年 1 月	講師 4 人からのフィードバックおよび、試行実施受講者 47 人（66 名中）からのアンケート等をとに成果や課題を明確化できた。	2
⑤　認証制度を確立し、最初の認証者を出すことにより、適切な支援ができる人を相談支援現場に配置できるようになる。	定性的：認証制度の確立 定量的：応募者数および認証者数	制度を構築すること。応募者を獲得し、最初の認証者を出すこと	2023 年 3 月	2022 年度実施予定。	2
⑥　COVID-19 感染拡大、自粛生活等の影響により、緊急的かつ臨時的な相談が増加し、相談支援員等の人材の確保により緊急かつリスク管理体制の強化が図られる。	定性的：緊急かつリスク管理体制の確立　定量的：相談支援員数、相談対応数	緊急かつリスク管理体制を構築、強化し、相談支援員の増員・確保（10 人以上）	2021 年 6 月	緊急助成金を従来、無給で行っていた相談・支援に充てることで、各人各団体の活動に持続可能性が生じ、相談員を増員する団体が増えた（全国で計 11 人増員）	2

⑦　緊急支援の取組みをとおしてその必要性や、新たな人材確保・OJT、実習研修の実施を開始し、相談支援体制の構築に向けた取組みが推進される。	定性的：OJT、実習研修の実施方法の確立　定量的：研修参加者数	OJT、実習研修の方法を確立し、研修参加者数の確保（15 人）	2021 年 6 月	短期間で実施できる研修プログラムを検討。2 月、3 月に計 3 日間、5 コマの研修を開催し、延べ 67 名の参加者があった。	2

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
ほぼカリキュラム案、コース案を確定し、また講座の試行実施（11 科目）をオンラインで 66 名に対し実施したことで、ニーズの状況や技術的な課題などが明確になった。今後は、7 月からの本格実施に向けて、講師の依頼、テキストの作成、講義動画の作成および広報と申し込み受付の作業に入っていく。
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
コロナ禍の影響で、当初の予定とは変更し、オンラインを中心にした講座事業に変更した。そのことによって、むしろ講師謝金や会場費、交通費が安く済み、どの地域からも、自分のあいた時間に受講することができるようになった。同時に、オンライン特有の技術的な面での課題が出てきた。

② 広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 北海道新聞２０２１年９月 30 日付（記事コピー別添） 時事通信 2022 年 02 月 19 日 https://www.jiji.com/jc/article?k=2022021900160&g=soc 2.広報制作物等 チラシ（別添） 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ９月の全国シェルターシンポ（オンライン）のウェビナーや会議等で広報しました。

④規程類の整備に関する報告

1.　事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☑完了　　☐整備中
2.　整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☐全て公開した　☑一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： 活動の性質上、被害者と支援者の安全を守るため、すべての規程を公開するのはリスクがあり、最小限にとどめたい。

3.　変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☐はい　　☑いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：コンプライアンス委員会は設置していない。コンプライアンスについては倫理規定に定めており、何が不正行為に当たるかは規程の別表で決めていて、それについては資金分配団体に報告済み。

6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）